

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成30年5月18日
タイトル	「スイゲンゼニタナゴ」産卵母貝調査をしました！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成30年3月31日、福山市環境保全課と学校法人 盈進学園 盈進中学高等学校の環境科学研究部を中心とした有志により「スイゲンゼニタナゴ」の産卵母貝の調査が水土里ネット福山の用水路で行われました。

「スイゲンゼニタナゴ」は、最も絶滅の心配が高いため『種の保存法』で国内希少野生動植物種に指定され、許可のないまま「捕獲・飼育・販売・放流」することは厳しく禁止されている貴重な魚です。

福山市では、スイゲンゼニタナゴを守るため「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」が発足し、疏水百選にも選ばれた「芦田川用水」にスイゲンゼニタナゴが生息していることから、水利権者として水土里ネット福山も協議会の一員となっています。

毎年調査を行っている用水路は「丸川分水」といい、下流の水系に分水する施設で平成7年度にスイゲンゼニタナゴを守るため川底に川砂を入れ自然護岸を整備しています。平成29年度には改修後初めて全体の浚渫を施工し、川底の砂が現れ、夏には多数の淡水魚が群れ泳ぎ生物多様性が蘇っていました。

参加されたスイゲンゼニタナゴを守る市民の会、福山市立動物園、盈進中学高等学校環境科学研究部の面々、そして福山市環境保全課の職員が川に入り調査が始まりました。



調査チームは胴長を履き、手探りで貝を確認するため薄手の肘までの長さの手袋をはめ調査しました。護岸の桜も満開の温かな日で、中には半袖の生徒もいました。調査チームは、水門に近い下流から一列に並んで調整池へ入り、横一列に並んで一斉に上流に向けて調査を開始です。這いつくばって、手で池の底を浚いながら貝を探していきます。調査を開始すると、せっかく浚渫したのですが予想以上の泥が堆積していました。ここは幅が広く沈砂池として機能している水路なのでしかたがありません。しかし、泥の

下にきれいな砂が現れました。浚渫をする前の調査では、泥の堆積が多く胴長を履いて前に進むのも難しかったようですが、昨年4月に浚渫をしたことで今年の調査はスムーズになったようでした。

貝を見つけると大きな声で報告し、位置を地図に記載し、毎年の貝の分布を比較しておられます。今年は全体的に貝の量が減少していましたが、マツカサガイやイシガイといったスイゲンゼニタナゴの産卵母貝となる貝の割合が増えていました。

上流まで貝の調査をしたら、つぎに魚を網ですくって採取しました。採取した魚も種類別に確認しました。今年も残念ながらスイゲンゼニタナゴは確認できませんでしたが、捕れた魚の数は少ないものの、網に入りきれないほど大きなコイやニゴイが捕れて大騒ぎ。昨年より確認できた種類は増えていました。



今年はこちらに限らず芦田川水系のいたる所で魚が見られなくなっているようで、例年にない冬の寒さで、水温が非常に低かったことなどが影響しているのでしょうか。



みなさん調査お疲れさまでした！



調査終了後に貝も魚も元に戻します！

水土里ネット福山は「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」の一員として、ふるさとの生きた財産である「スイゲンゼニタナゴ」が将来にわたってこの芦田川水系に健全かつ安定的に生息できる水環境の保全と安定した農業用水の取水配水に努めるとともに、農業用水の果す社会的役割の重要性を水土里レポートとして発信し、21世紀土地改良区創造運動を展開してまいります。